



活動概要

公益社団法人
日本工学アカデミー

日本工学アカデミー-EAJの黎明



- 1978年:江崎玲於奈博士が来日以来、「工学学士院」構想を
日本政府・国会・学術会議・経済団体に提唱
- 1983年:工学・技術振興懇談会(有志17名)発足、審議開始
- 1985:日本工学アカデミー設立企画委員会発足
 - ・産官学を問わず、工学研究・技術開発・産業振興他に貢献
 - ・会員は個人の立場で、運営資金は会員の会費で賄う独立・
中立組織を志向する、との結論
 - 1.創造的な研究開発の整備
 - 2.基礎的研究推進のための環境の整備
 - 3.工学及び技術の分野における国際交流
- 1987/4:日本工学アカデミー創立総会(日本工業倶楽部)
 - ・小林宏治初代会長(日本電気株式会社会長)を選任
 - ・入会会員417名(内発起人180名)、総会出席者234名

アカデミーの姿、EAJの特徴と実績



➤ アカデミーとは

学問や芸術に関する指導的な人材により構成される組織で、会員は**一定の推薦制度にもとづき推挙**され、**生涯、学界や社会のために活動**する。この考え方は米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデン、中国など各国のアカデミーで広く共有されている。

➤ アカデミーの対外活動

科学者を代表する組織として**社会的にその存在が認められており**、学界に関わることばかりでなく、政府や議会を含めて**外部への提言活動**を積極的に行っている。

日本工学アカデミーEAJの特徴と実績

- 「人類の安寧とより良き生存(Human security and well-being)のために、未来社会を工学する(Engineer the Future)」を理念とする、独立・中立運営の団体。
- 31カ国で構成する国際工学アカデミー連合(CAETS*)に、その10番目のアカデミーとして、日本を代表しての加盟が1990年に認められた。
- 工学及び科学技術、並びにこれらと密接に関連する分野に関し顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的な人材として推挙された会員**が個人の立場で、公益目的事業に係わる委員会、支部、国際活動などを通じ、学界、産業界、社会だけでなく、政府や議会も含めた、国内外での提言活動、分け隔て無い積極的な意見交換を行っており、社会的にその存在が認められている。

* CAETS : International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences

EAJ会員選考プロセス：個人会員(正会員・客員会員)は、正会員3名を推薦人**とする「会員候補者推薦書」に基づき、会員選考委員会で入会審査を実施。候補者を理事会に推薦、理事会承認を経て入会となる。



人類の安寧とより良き生存 (Human security and well-being) に向けて、 「未来社会を工学する」 (Engineer the Future)

定款 4 条に定める 5 事業

- (事業1) 創造的革新技術の萌芽の模索、評価等による、先見性・創造性のある基礎研究の推進のための調査研究、提言等に関する事業
- (事業2) 社会、産業界、学界が工学及び科学技術に関する分野で直面している具体的問題の把握とその解決に関する事業
- (事業3) 工学及び科学技術に関連する問題についての普及啓発活動に関する事業
- (事業4) 工学及び科学技術の分野における国際交流の推進に関する事業
- (事業5) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

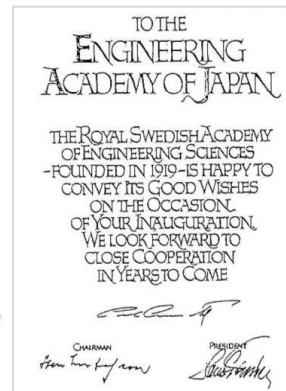
- 羅針盤となる政策提言を発信する
- 国際的に先導的な活動実績を積む
- 次世代を担う指導的な人材を育む
- 市民の科学技術活用能力を伸ばす
- あらゆる壁を越えて共創を広げる

沿革



小林宏治
EAJ会長

カール16世グスタフ
IVA名誉会長
(スウェーデン国王)



設立と法人化

- 1987年4月16日 設立
- 1998年1月5日 社団法人化
- 2013年7月1日 公益社団法人に移行

スウェーデン王立理工学アカデミーからの記念品授与
(1987年11月3日 スウェーデン大使館)
EAJ News No. 1&3 (1987, 1988)

歴代会長

1987年度-1988年度	小林 宏治	1989年度-1993年度	向坊 隆
1994年度-1997年度	岡村 總吾	1998年度-2001年度	永野 健
2002年度-2005年度	西澤 潤一	2006年度-2009年度	中原 恒雄
2010年度-2015年度	小宮山 宏	2016年度-2019年度	阿部 博之
2020年度-2023年度	小林 喜光	2024年度-	安西 祐一郎

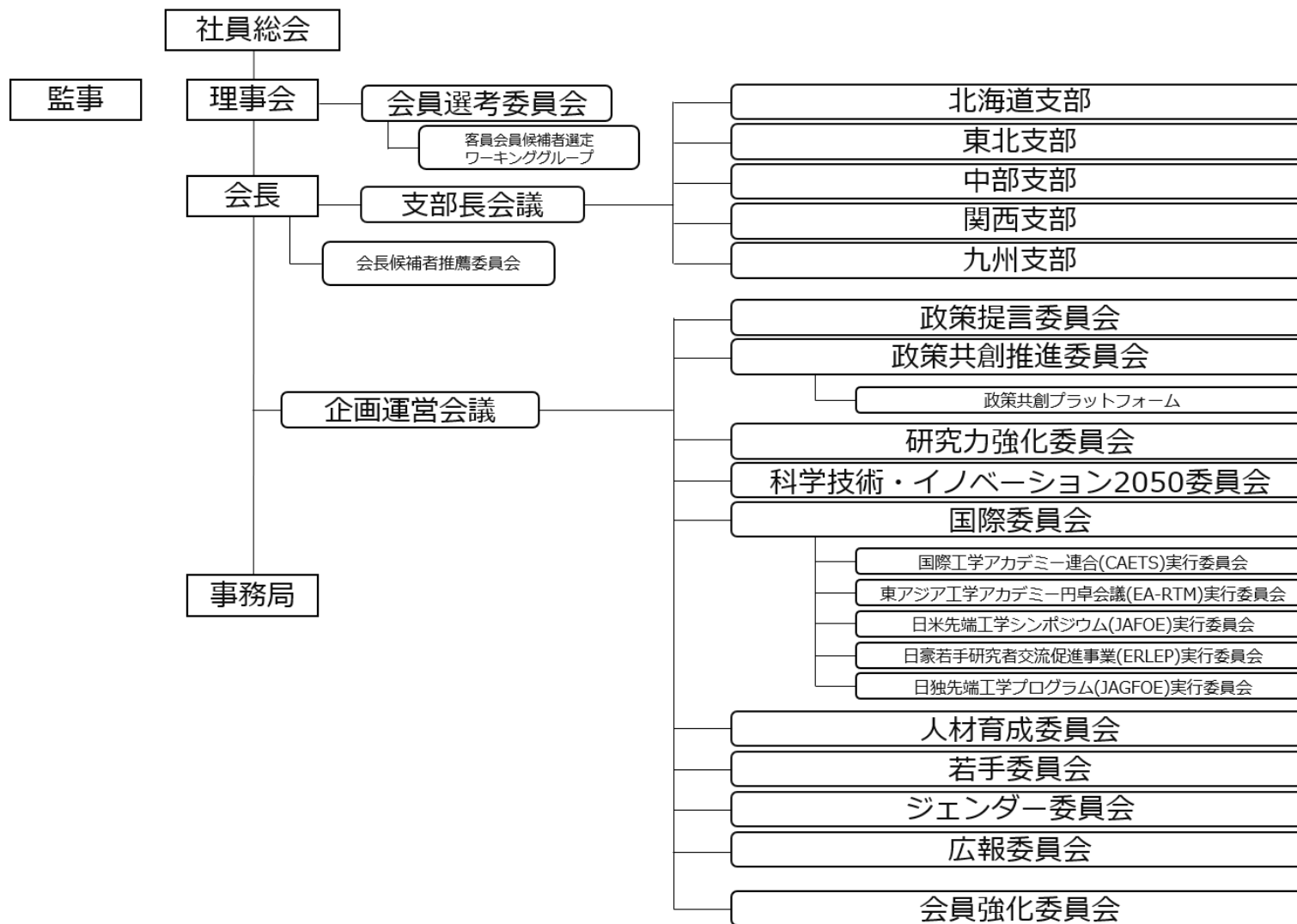
会員数(2026年6月10日現在)

正会員 778 名 賛助会員 36社・団体 客員会員 71名 (海外:17、国内:54)

広く学界、産業界及び国の機関等において、工学及び科学技術並びにこれらと密接に関連する分野に関し顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的人材によって構成される本会は、工学及び科学技術全般の進歩及びこれらと社会との関係の維持向上を図り、我が国ひいては世界の発展に資する

(『日本工学アカデミーの使命』より抜粋)

組織



役員・支部長・委員長



会 長	安西祐一郎				
副会長（会長代理）	五十嵐仁一				
副会長	大島 まり	鈴木 教洋			
専務理事	林 秀樹				
常務理事	折戸 文夫				
理 事	浅間 一	安達千波矢	天野 浩	伊藤 みほ	
	岩井 善郎	金谷 一朗	佐々木直哉	塩満 典子	
	杉山 正和	園田 佳巨	田口 康	立川 康人	
	田中 敏宏	田中 真美	谷 明人	幅崎 浩樹	
	浜崎 祐司	林 裕子	久枝 良雄	松田 瑞史	
	道奥 康治	湯上 浩雄	渡邊 政嘉		
	監 事	亀井 信一	福田 博明	安永 裕幸	
	最高顧問	吉川 弘之	小宮山 宏	阿部 博之	
名誉会長	小林 喜光				
顧 問	青山 博之	池田 駿介	梶山 千里	神山 新一	
	嘉門 雅史	川合 眞紀	岸本喜久雄	久間 和生	
	國武 豊喜	小泉 英明	城石 芳博	谷口 功	
	種市 健	中西 友子	中村 道治	永野 博	
	原山 優子	菱田 公一	松尾 友矩	松本洋一郎	
御園生 誠	宮城 光信				
栄誉フェロー	原山 優子				

	委員会/支部等	委員長/支部長
委 員 会	会員選考委員会	岸本喜久雄
	会員強化委員会	長坂 徹也
	会長候補者推薦委員会	小林 喜光
	選挙管理委員会	永野 博
	企画運営会議	安西祐一郎
	政策提言委員会	倉持 隆雄
	政策共創推進委員会	永野 博
	研究力強化委員会	杉山 正和
	科学技術・イノベーション2050委員会	有川 太郎
	国際委員会	森本 浩一
	CAETS実行委員会	田口 康
	EA-RTM実行委員会	三島 望
	JAFOE実行委員会	所 千晴
	ERLEP実行委員会	大橋 俊朗
	JAGFOE実行委員会	原山 優子
支 部	人材育成委員会	辻 佳子
	若手委員会	関谷 毅
	ジェンダー委員会	田中 真美
	広報委員会	小田 俊理
	北海道支部	瀬戸口 剛
	東北支部	長坂 徹也
	中部支部	岩井 善郎 八重樫武久
	関西支部	田中 敏宏
	九州支部	山田 淳

会員・賛助会員

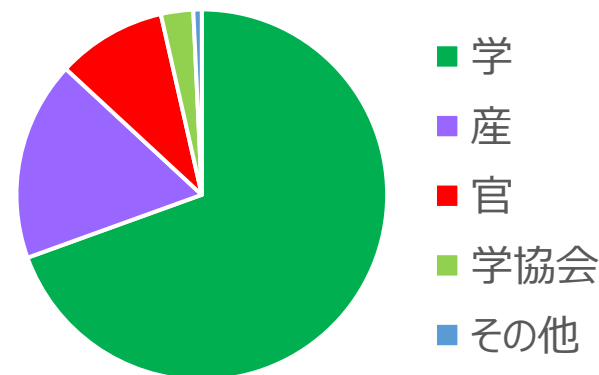


正会員:778名

産学官の指導的技術者で、日本国籍を有する者

正会員、賛助会員、客員会員
2026年6月10日現在

専門分野別 内訳	機械系	情報・ 電気電子系	化学・ 材料系	建設系
会員数	152名	180名	143名	103名
%	20%	23%	18%	13%
資源・ I社 ^① -系	物理系	生命系	経営・ 政策系	横断領域
41名	31名	45名	60名	23名
5%	4%	6%	8%	3%



賛助会員：36社・団体

客員会員:71名

(1)CAETS加盟の海外アカデミー会員：17名
(2)日本に在住・活動拠点をもち、
EAJに貢献されている外国籍会員：54名

日本電気株式会社、住友電気工業株式会社、トヨタ自動車株式会社、大成建設株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社日立製作所、三菱電機株式会社、NTT株式会社、株式会社東芝、株式会社NTTデータグループ、株式会社NTTドコモ、一般財団法人新技術振興渡辺記念会、東京電力ホールディングス株式会社、東レ株式会社、国立研究開発法人科学技術振興機構、株式会社三菱総合研究所、株式会社IHI、株式会社島津製作所、株式会社建設技術研究所、ファナック株式会社、パナソニック株式会社、株式会社日立ハイテク、株式会社カネカ、株式会社堀場製作所、富士フイルム株式会社、東京エレクトロン株式会社、東海旅客鉄道株式会社、武蔵エンジニアリング株式会社、東北電力株式会社、DMG森精機株式会社、ダイキン工業株式会社、東海カーボン株式会社、株式会社野村総合研究所、大日本印刷株式会社、花王株式会社、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

国際連携活動



異分野、異業種、国際交流による
若手リーダー人材育成

国際連携

➤ CAETS

31カ国で構成する**国際工学アカデミー連合CAETS (CAETS:International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences)**に1990年、日本を代表して10番目のアカデミーとして加盟。国際連携活動強化中。

➤ STS Forum/AEPM

STS フォーラム年次総会枠内で**工学アカデミー会長会議 (AEPM:the Academies of Engineering Presidents' Meeting)**を毎年開催

➤ 東アジア工学アカデミー円卓会議

EA-RTM:East Asia Round Table Meeting and Symposiumを毎年、日・中・韓持ち回りで開催

第1回(大阪)1997年、第2回(杭州)1998年、第3回(ソウル)1999年、第4回(淡路島)2000年、第5回(重慶)2001年、第6回(ソウル)2002年、第7回(東京)2003年、第8回(蘇州)2004年、第9回(ソウル)2005年、第10回(東京)2006年、第11回(北京)2007年、第12回(ソウル)2008年、第13回(名古屋)2009年、第14回(西安)2010年、第15回(釜山)2011年、2012年延期(福岡)、第16回(東京)2013年、第17回(済州島)2014年、第18回(武漢)2015年、第19回(福岡)2016年、第20回(釜山)2017年、第21回(杭州)2018年、第22回(大阪)2019年、第23回(ソウル)2020年、第24回(北京)2021年、第25回(東京)2022年、第26回(ソウル)2023年、第27回(北京)2024年、第28回(岡山)2025年、第29回(ソウル)2026年

➤ 日米先端工学シンポジウム

JAF OE (Japan America Frontiers of Engineering) Symposium (NAE-JST-EAJ)

第1回 2-4 November, 2000, 奈良

.....

第17回 1-4 July, 2025, UC San Diego

第18回 14-17 June, 2027, 三島



➤ 日豪若手研究者交流促進事業

ERLEP (Australia-Japan Emerging Research Leaders Exchange Program) 2009-2016 (ATSE-JSPS-EAJ)

The Joint Symposium of ERLEP toward the Next Big Step
ERLEP Trans-Disciplinary Forum
1st December 4-6, 2017, Fukuoka
2nd December 3-5, 2018, Melbourne
3rd October 16-18, 2019, Sapporo
4th November 12-22, 2024, Melbourne



➤ 日独先端工学プログラム

JAGFOE (Japan-Germany Frontiers of Engineering Symposium: JAGFOE)

第1回 2025年11月26-28日 日本開催



地方発のSTIに挑戦する支部活動



- 地区活動は 1993 年に始まり、2011年に九州支部、2012 年に北海道・東北支部、2016 年に中部支部、2018年に関西支部が設立された。
- 2020年に北海道支部が北海道・東北支部から発展的に独立し、各地区の特質に根差した発展に貢献すべく、産学官民連携による5支部体制で活動中。
- 今後、全ての地域で支部を結成し、EAJならではの活動を居住地で行う。
- 中国・四国支部設立に向けたキックオフを2024年3月2日に開催。

